

科 目 名	保 育 原 理					開 講 キャンパス	神 園	
担 当 者	赤 星 まゆみ							
開 講 年 次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修	
授業の概要 及びねらい	本授業では、保育の本質と制度について考える。まず、昔の子育てと現代の子育てのあり方を比較し、保育行為とその背後にある社会状況や子ども観を検討する。つぎに、「保育所保育指針」に基づいて、具体的に、保育の本質と保育所制度の原則、子どもの発達と保育所保育の原理、保育所の社会的役割の基本を学び、保育の専門家としての子ども観・保育観を培う。							
授 業 の 到 達 目 標	1. 保育という営みの本質・目的について考え、保育の意義を説明することができる。 2. 現代の子ども観がどのような考え方の上に立脚しているか、わかりやすく述べることができる。 3. 「子ども最善の利益」の原則に立った保育の理念について説明できる。 4. 保育における「人権に基づいた子どもの発達保障」のあり方について自分の考えを持つことができる。 5. 「保育所保育指針」に則って、保育所保育の目的と基本原則について理解し、わかりやすく説明することができる。 6. 「保育所保育指針」に則って、保育所の社会的責任について理解し、わかりやすく説明することができる。 7. 「保育所保育指針」に則って、保育所保育の原理（内容と方法）を説明することができる。 8. 幼稚園と保育所等の制度の特徴を理解し、比較しながら説明することができる。 9. 倫理観に裏付けられた保育士の専門性について理解し、説明できる。 10. 保育所の子育て支援の役割について理解し、説明できる。 11. 保育所の役割と保育所のあり方について、自分なりの考えをもち、自分の考えをわかりやすく述べることができる。 12. 世界的な視野から今日の保育の動向や課題に関心を持つ。							
学 習 方 法	講義形式を中心とするが、視聴覚教材を援用し、部分的にグループワークや発表を取り入れる。また、レポート等の課題提出を求める。							
テキスト及び参考書等	テキスト：『保育の基礎を培う保育原理』、萌文書林。及び、『保育所保育指針 解説書』フレーベル館。参考書等：『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、『最新保育資料集』ミネルヴァ書房。その他は、授業時に指示する。また、必要に応じて、資料を配付する。							
評 価 基 準 ・ 方 法	到達目標							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合			
定期試験	◎	◎			50			
小テスト等	○		○		10			
宿題・授業外レポート	◎	◎	◎	◎	40			
授業態度			○					
受講者の発表	○	○	○					
授業への参加度			○					
その他	授業への積極的な参加は、評価の際、10%の範囲内で加点します。また、参加度が良くない場合は、評価の際、10%の範囲内で減点します。なお、出席が3分の2に満たない場合は成績評価を行いません。							
合 計						100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)								
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）								
第 1 週	1	ガイダンス（授業の目的、内容、方法）—現代社会の子どもと子育てについて						
第 2 週	2 - 1	子どもと子育て—昔の子育てと現代の子育ての比較：乳幼児死亡率をもとに考える						
第 3 週	2 - 2	子どもと子育て—子ども観の変遷：J. = J. ルソーの思想と影響						
第 4 週	3 - 1	子どもの権利と保育—コルチャック先生と子どもの権利の考え						
第 5 週	3 - 2	子どもの権利と保育—子どもの権利条約の成立						
第 6 週	3 - 3	子どもの権利と保育—子どもの権利条約の内容						
第 7 週	4 - 1	現代の子ども観と保育の理念—子ども最善の利益						
第 8 週	4 - 2	現代の子ども観と保育の理念—子どもの人権に基づいた発達保障						
第 9 週	5 - 1	保育の制度—歴史と現状、幼稚園と保育所の比較、認定こども園						
第 10 週	5 - 2	保育の制度—幼児教育・保育（ECEC）とその課題・世界的動向						
第 11 週	6 - 1	保育所保育指針—概要						
第 12 週	6 - 2	保育所保育指針—保育所保育の基本						
第 13 週	6 - 3	保育所保育指針—保育所保育の原理						
第 14 週	6 - 4	保育所保育指針—保育所の社会的役割						
第 15 週	7	まとめ、ふりかえり						
第 16 週	試験							
備 考	授業への積極的参加としてノート作成を重視する。また、事前学習及び学習課題等に関する記載をした詳細な授業計画は、授業開始時に配付する。							